

海外における日本研究の新地平

海外若手研究員による府民向けセミナー

近代における「迷信」の癸見

京都学・歴彩館 京都学研究員

マテイアス・ハイエク

令和四年十月二十七日(木)

午後一時半から二時半(受付一時より)

定員 五十名 無料 当日受付 先着順

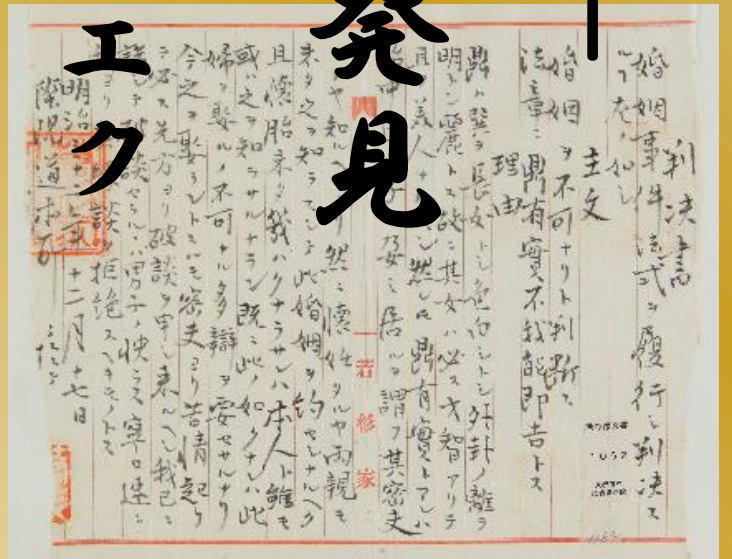
京都府立京都学・歴彩館 小ホール

主催：京都府立京都学・歴彩館 共催：京都府立大学

問合せ：京都学・歴彩館 京都学推進課 075-723-4835



(珍事集「開化自慢旧弊頑固凹凸問答」 京の記憶アーカイブより)



(若杉家文書「陰陽道判決書」 京の記憶アーカイブより)

マティアス・ハイエク

略歴 パリ第四ソルボンヌ大学哲学部
フランス国立東洋言語文化研究院日本語学科
パリ第四ソルボンヌ大学院 人文科社会学専攻博士課程前期
フランス国立東洋言語文化研究院日本研究専攻博士課程後期（文学博士）
総合研究大学院大学 国際日本研究専攻博士課程後期（満期退学）
パリ・シテ大学（旧パリ第七大学）助教・准教授・教授を歴任
フランス高等研究実習院宗教学部門 教授



研究テーマ

近代における「迷信」の成立：撲滅政策と科学史誕生の視座

明治維新後に進められた「文明開化」の中、従来の学知の基礎となっていた陰陽五行思想が否定されるようになった。中でも、占いと呪いの類いは、「妖怪」と並んで「迷信」の代名詞となり、人々の生活の中から撤廃（撲滅）される対象となった。

「迷信」という概念の成立には、この時代の「科学」や「宗教」という新たな概念の台頭が深く関係していると思われる。事実、「迷信撲滅」運動に関わった人物の多くは、哲学、医学、あるいは物理学、天文学、心理学という新科学の専門家でありながら、「宗教（仏教、キリスト教）」とも深い関わりを持っていた。

本研究では、これらの人物の言論と著作における「迷信」的意識の成立に着目しつつ、歴彩館の豊富な資料を使い、近代まで呪術・占術などの「旧弊」に携わっていた人々が幅広く活躍していた京都府において、この「迷信撲滅」運動がどのように受け止められたかを考えてみたい。

<< アクセス >>



●ご来場には、地下鉄・バス等の公共交通機関をご利用ください。

- ▶ JR・近鉄京都駅、阪急烏丸駅から
京都市営地下鉄 烏丸線「北山駅」下車（①出口）
南へ徒歩約4分
- ▶ 京都出町柳駅から
京都市バス1
府立大学前（北大路通）下車 北へ徒歩約6分
- ▶ JR二条駅から
京都市バス206
府立大学前（北大路通）下車 北へ徒歩約6分

<< 京都学・歴彩館からのお知らせ >>

当館では、新型コロナウイルス感染予防対策を行っております。今後の状況により予定を変更する場合がございますのでご了承ください。またご来館の皆様にはマスクの着用（ご持参）等について、御協力を賜りますようお願い申し上げます。